みやき町の財政状況

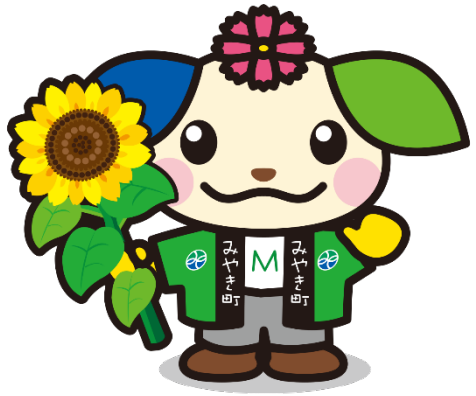
～令和７年度決算～

２０２６（令和８）年１０月作成

総務部　財政課

もくじ

そもそも「財政」ってなんだろう？？　・・・１ページ
みやき町の令和７年度決算を見てみよう！　・・・２ページ
歳入はどんな感じだろう？　・・・３ページ
歳出は何に使ったのだろう？　・・・４ページ
歳出はどんなことに使ったのだろう？　・・・５ページ
歳入・歳出を家計に置き換えてみよう！　・・・６ページ
歳入の推移を見てみよう！　・・・７ページ
歳出の推移を見てみよう！　・・・８ページ
一人あたりの歳入・歳出を他のまちと比べてみよう！　・・・９ページ
借金はどのくらいあるんだろう？　・・・10ページ
借金を他のまちと比べてみよう！　・・・11ページ
貯金はどのくらいあるんだろう？　・・・12ページ
貯金を他のまちと比べてみよう！　・・・13ページ
経常収支比率ってなに？　・・・14ページ
将来負担比率ってなに？　・・・15ページ
行政改革は必要？　・・・16ページ
行政改革大綱の内容は？　・・・17ページ





そもそも「財政」ってなんだろう？？

「財政」ってなに？？

　地方公共団体は、学校・保育園・図書館・公民館などの運営や、子育て、介護、障がい者の支援、道路や下水道の維持管理、ごみの回収など、様々な行政サービスを行っています。
　町民の皆様に納めていただいた税金などのお金を集めて管理し、これらの行政サービスに必要なお金を支払っていく活動を「財政」と言います。

「予算」と「決算」ってなに？？

　「予算」とは、お金のやりくりの「計画」のことです。１年間の税金などの収入がどれくらいかを予測し、その範囲の中でお金の使い道（支出）を決めています。
　「決算」とは、予算に基づいて実施した１年間の収入と支出の「結果」のことです。

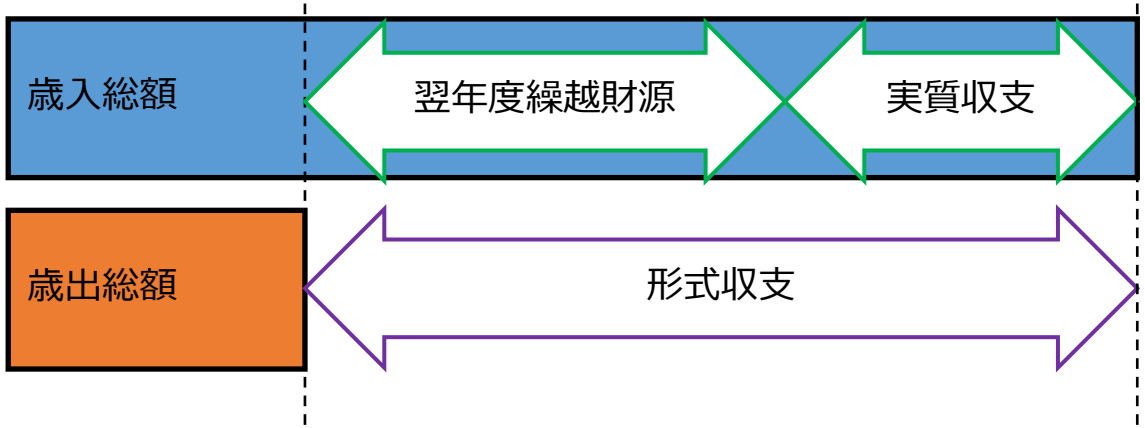
みやき町の令和７年度決算を見てみよう！

令和７年度の決算（普通会計※1ベース）
歳入（収入）は、２２４億４，４２７万円（前年対比－１５億７，５８７万円）
歳出（支出）は、２１７億７，６４６万円（前年対比－１４億４，０３６万円）
形式収支（歳入－歳出）は６億６，７８１万円の黒字となり、翌年度に繰り越す事業に使うための財源１億８，７９１万円を差し引いた「実質収支」が４億７，９９０万円の黒字額となり、令和８年度の歳入予算に繰越金として計上されます。

実質収支とは？

歳入・歳出の差引額（形式収支）から翌年度に繰り越す事業に使うための財源を差し引いたものです。
その年度の決算が黒字か赤字かは、実質収支によって判断されます。
実質収支の黒字額は翌年度の歳入として繰り越され、事業の実施や財政調整基金の積立などに使われます。
※基金については、12ページで説明します。

○実質収支のイメージ（収支が黒字の場合）





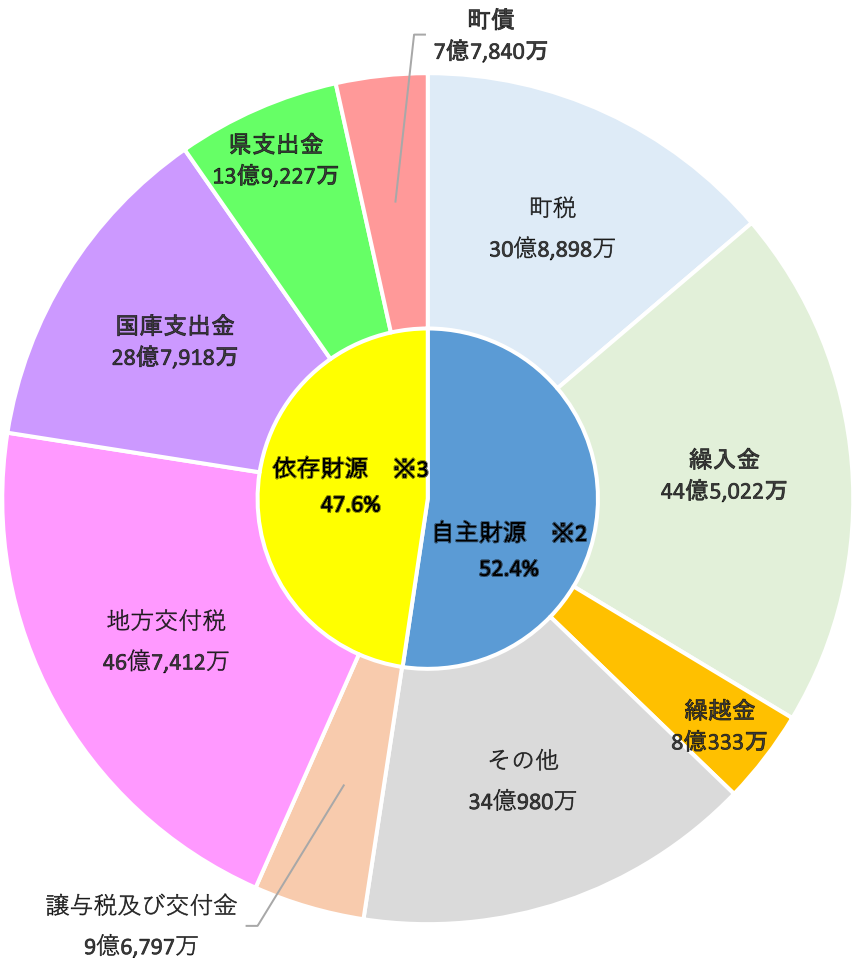
みやっきーと一緒に見てみよう！！

【用語説明】
※1　普通会計
全国の自治体の財政状況を比較するために用いられる地方財政統計上の統一的な会計区分のこと。
みやき町では「一般会計」、「グリーンパーク推進整備事業基金特別会計」、「ふるさと寄附金基金特別会計」の３会計が該当。

歳入はどんな感じだろう？

令和７年度普通会計決算の歳入総額は224億4,427万円となっており、内訳は以下のとおりです。

令和７年度：総額224億4,427万円





みやき町の歳入は、自主財源のうち、繰入金の割合が町税よりも大きいのが特徴だね。

町税とは？

町民の皆さんや、町内に事務所などを持つ法人などに納めていただく税金です。

「町民税」、「固定資産税」、「軽自動車税」、「町たばこ税」などがあり、町の歳入の中心となるものです。

繰入金とは？

一般会計、特別会計及び基金の間において、相互に資金運用することです。

例えば、一般会計の歳入に不足が生じた場合に、基金を取り崩して一般会計に繰り入れることなどを言います。

【用語説明】

※2　自主財源
　町税や寄附金など、町が自主的に収入できるお金のこと。

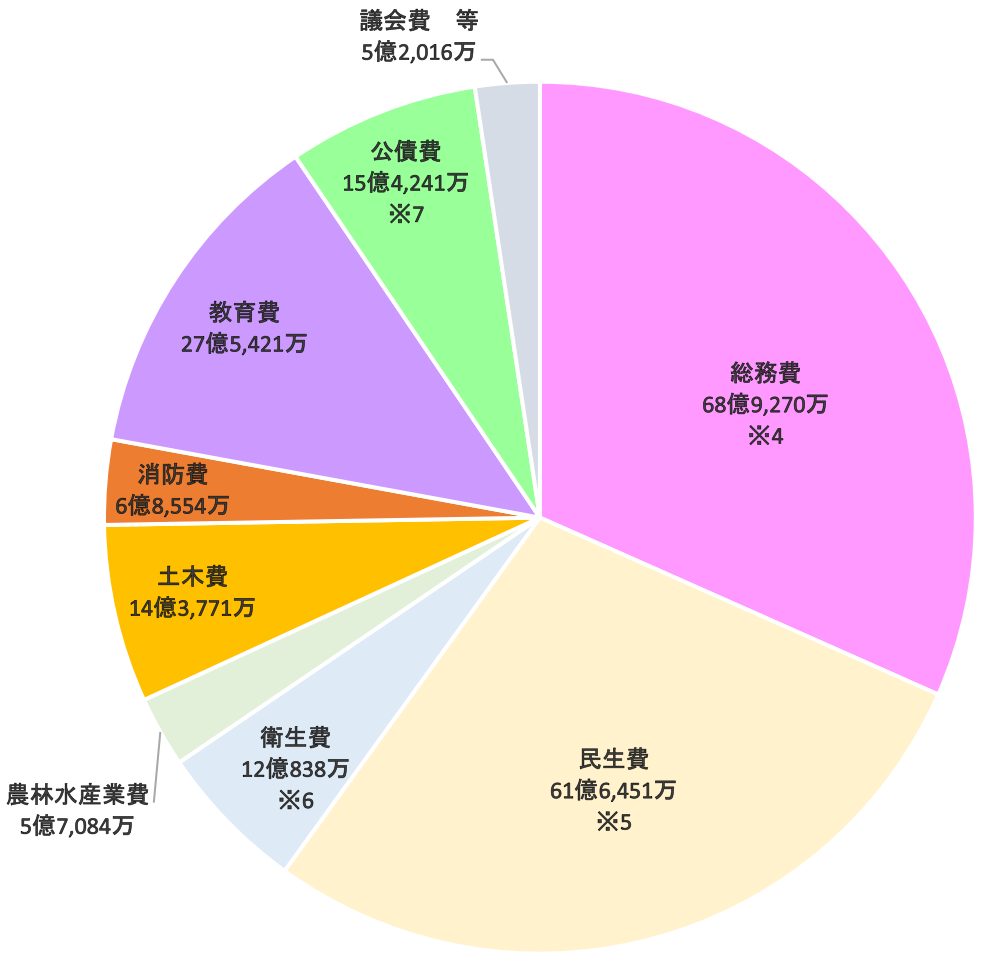
※3　依存財源
　国や佐賀県からのお金など、町が自主的に収入できないお金のこと。

歳出は何に使ったのだろう？

目的別

目的別とは、「仕事の内容」で区分した歳出です。
令和7年度普通会計決算の歳出における目的別内訳は以下のとおりです。

令和7年度：総額217億7,646万円



　みやき町の歳出を目的別で見ると、総務費や民生費の割合が大きいのが特徴だね。
　総務費の割合が大きいのは、ふるさと寄附金事業に関する経費が多いからなんだ。
　次に、性質別にみるとどうだろう？



ふるさと納税とは？

　ふるさと納税とは、自分の選んだ自治体に寄附（ふるさと納税）を行った場合に、寄附額のうち2,000円を越える部分について、所得税と住民税から原則として全額が控除される制度です（一定の上限はあります。）。
　みやき町では、平成30年度から「ふるさと寄附金基金特別会計」を設置しています。
　目的別内訳表の「総務費」令和７年度決算額68億9,270万円のうち、ふるさと寄附金事業に関する経費は47億5,614万円でした。

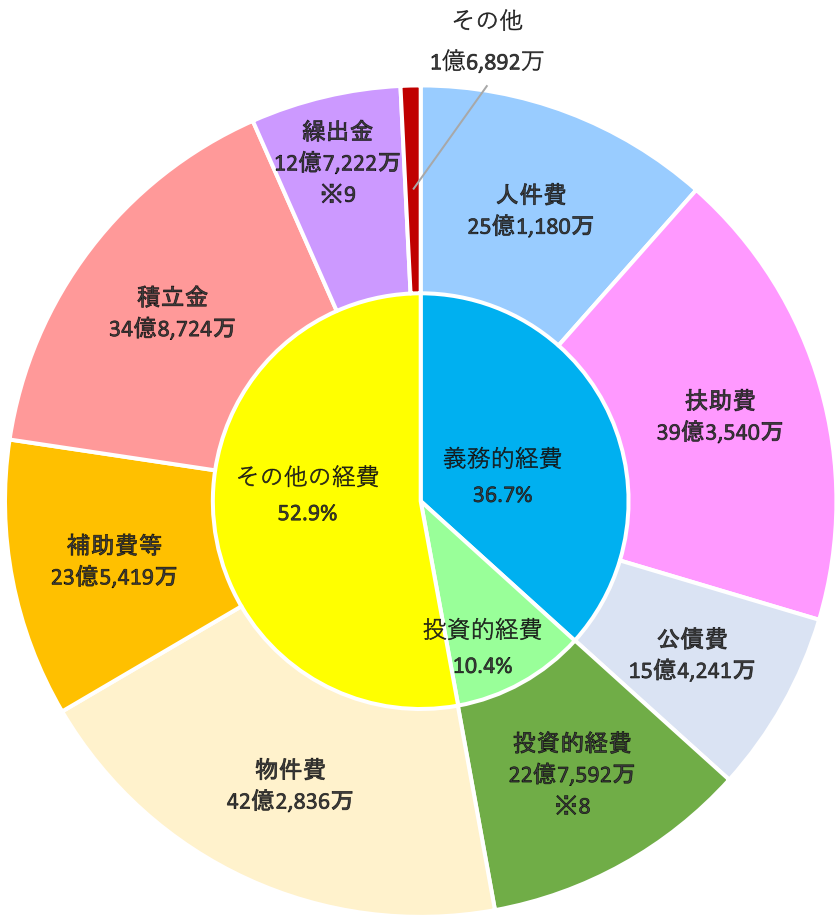
【用語説明】
※4　総務費　　町役場の全般的な仕事に使われる経費。
※5　民生費　　児童や高齢者などの生活を援助する経費。
※6　衛生費　　健康維持やごみなどを処理する経費。
※7　公債費　　道路や施設などを造るために借りたお金を返済する経費。

歳出はどんなことに使ったのだろう？

性質別

性質別とは、「どんなことにお金を使ったか」で区分した歳出です。
令和7年度普通会計決算の歳出における性質別内訳は以下のとおりです。

令和7年度：総額217億7,646万円





みやき町の歳出を目的別で見ると、物件費や積立金の割合が大きいのが特徴だね。
これは、ふるさと寄附金事業に関する経費や基金への積立が多いからなんだ。

義務的経費とは？

毎年の支出が義務付けられ、削減することが難しい経費のことです。
「人件費」、「扶助費」、「公債費」から構成され、義務的経費が増えると財政のゆとりが少なくなると言われています。
令和7年度の義務的経費は36.7%ですが、経常的な経費（毎年持続して支出される経費）に占める義務的経費は66.22%となっています。

○人件費　職員、会計年度任用職員の給与など
○扶助費　児童・高齢者・障がいのある方などの生活を維持するための経費
○公債費　道路や施設などを造るために借りたお金を返済する経費

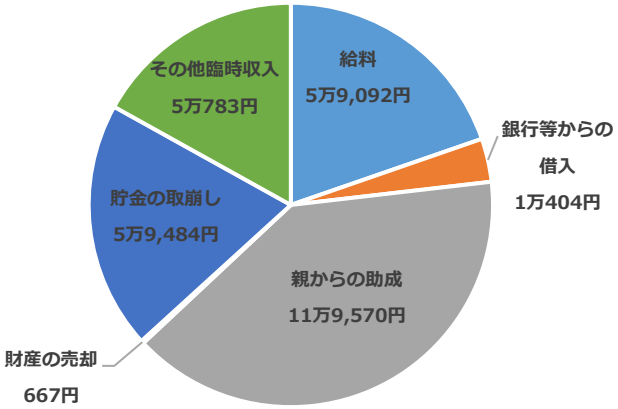
【用語説明】
※8　投資的経費　道路、公営住宅、学校などの整備や災害復旧に要する経費。
※9　繰出金　一般会計から特別会計及び一部基金へ支出される経費。

歳入・歳出を家計に置き換えてみよう！

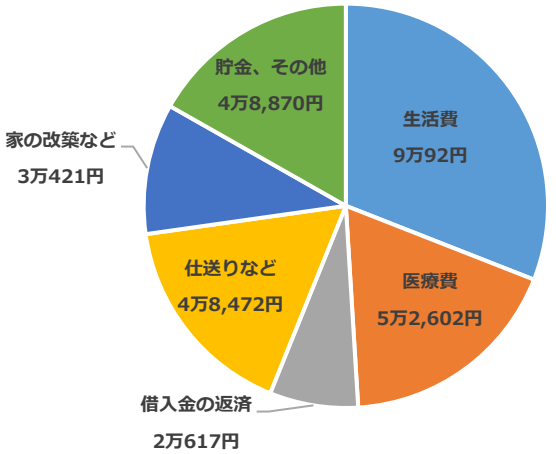
みやき町の令和７年度決算の収入を３０万円として、家計に置き換えると次のとおりとなります。

収入			支出	
給料	基本給 （町税、使用料及び手数料）	46,154円	生活費 （人件費、物件費）	90,092円
	諸手当 （地方譲与税、各種交付金）	12,938円	医療費 （扶助費）	52,602円
銀行等からの借入 （町債）		10,404円	銀行などからの借入金の返済 （公債費）	20,617円
親からの助成 （地方交付税、国・県支出金）		119,570円	仕送りなど （繰出金や補助費等）	48,472円
財産の売却になどによる収益 （財産収入）		667円	家の改築など （投資的経費）	30,421円
貯金の取崩し （繰入金）		59,484円	貯金、その他 （積立金、その他）	48,870円
その他臨時収入 （分担金及び負担金、寄附金など）		50,783円	支出計	291,074円
収入計		300,000円	差額（収入－支出）	8,926円

収入：30万円



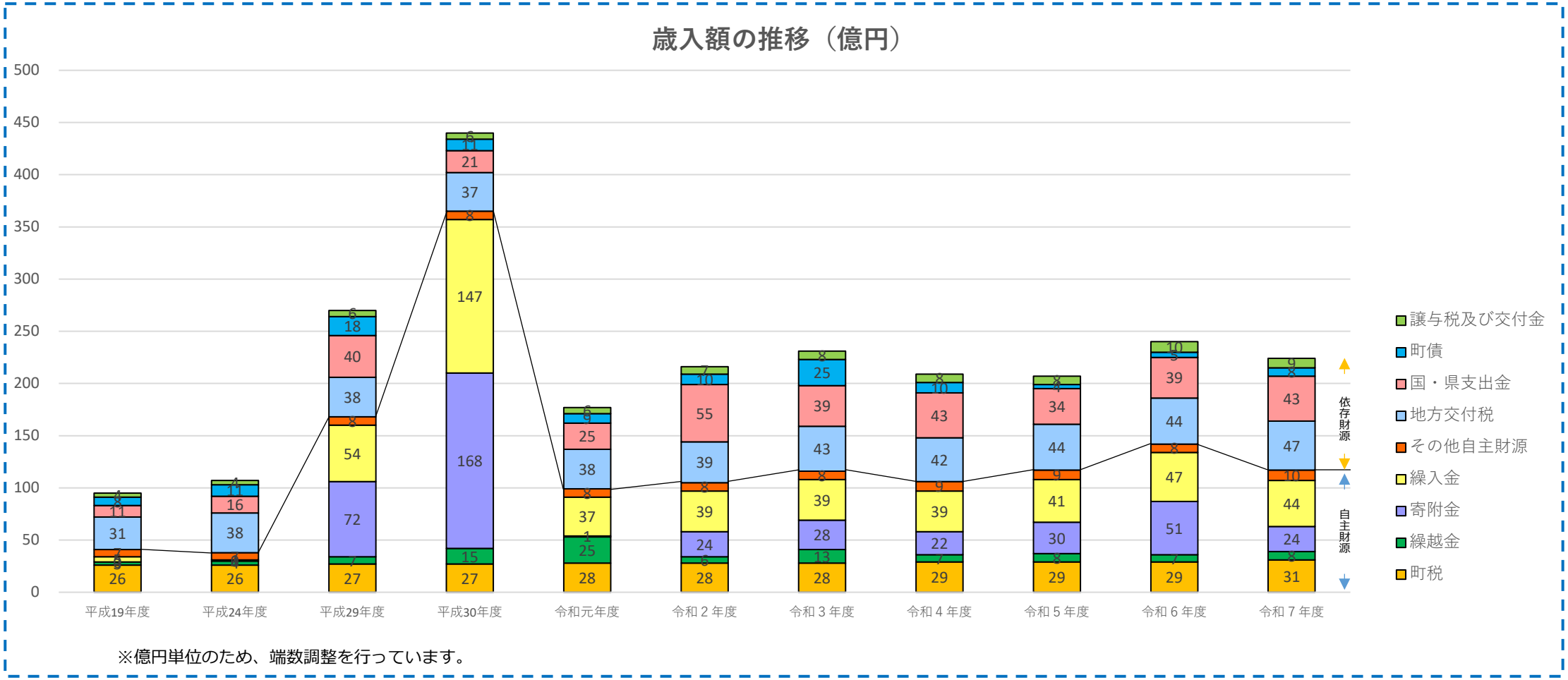
支出：29万1,074円





令和７年度の収入は、「親からの助成」が一番多くて、二番目が「貯金の取崩し」、三番目が「給料」となったよ。
令和７年度は貯金を取り崩して生計を立てたんだ。

歳入の推移を見てみよう！

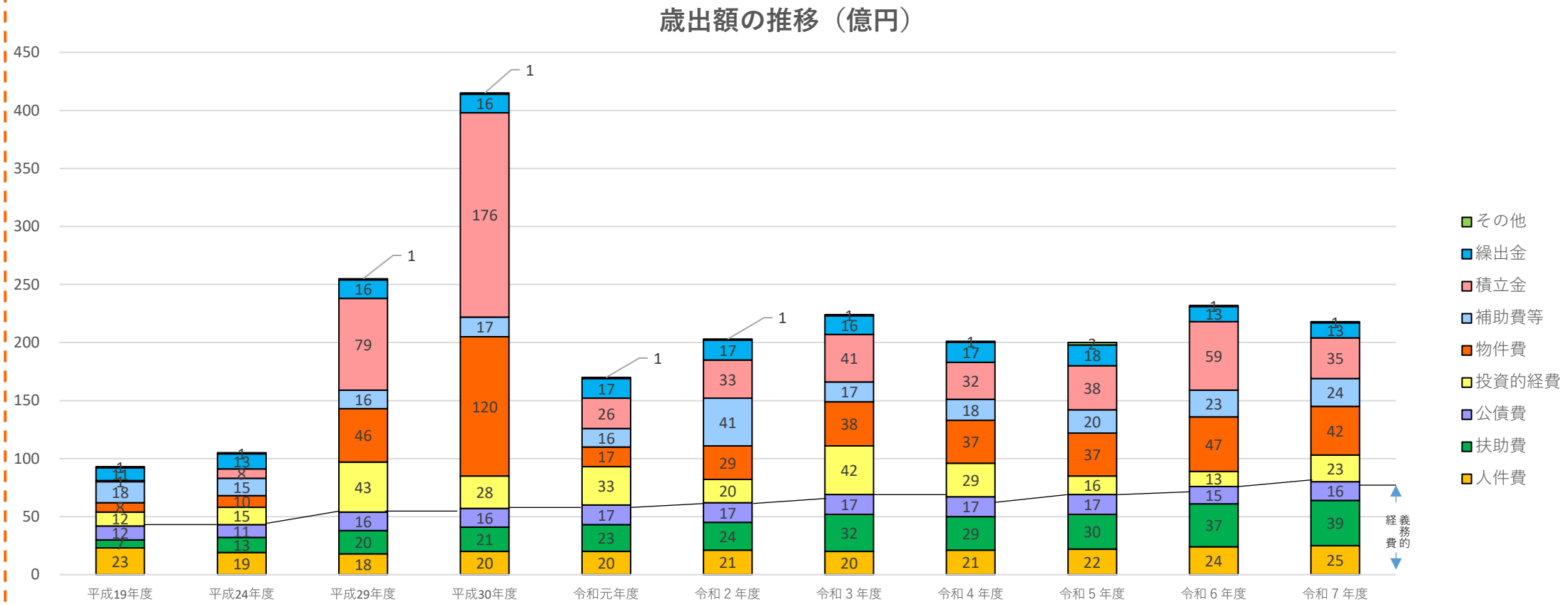


※億円単位のため、端数調整を行っています。

○歳入額の推移

依存財源では、物価高騰対策に加え、子育て支援や障がい福祉などの社会保障関係事業の増加に伴い、国・県支出金が増加傾向にあります。また、町の主要な財源である地方交付税は、概ね横ばいで推移しています。一方、自主財源では、町税が横ばいで推移しています。また、繰入金が平成29年度から増加しており、町税よりも多くなっています。これは、歳出が歳入を上回るため、基金を取崩さなければ、予算編成ができないためです。

歳出の推移を見てみよう！

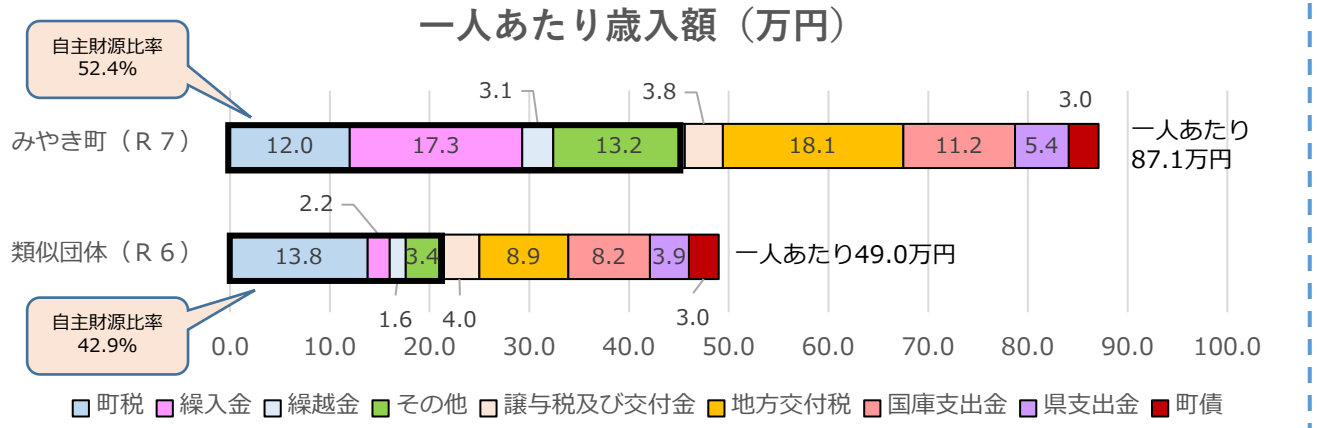


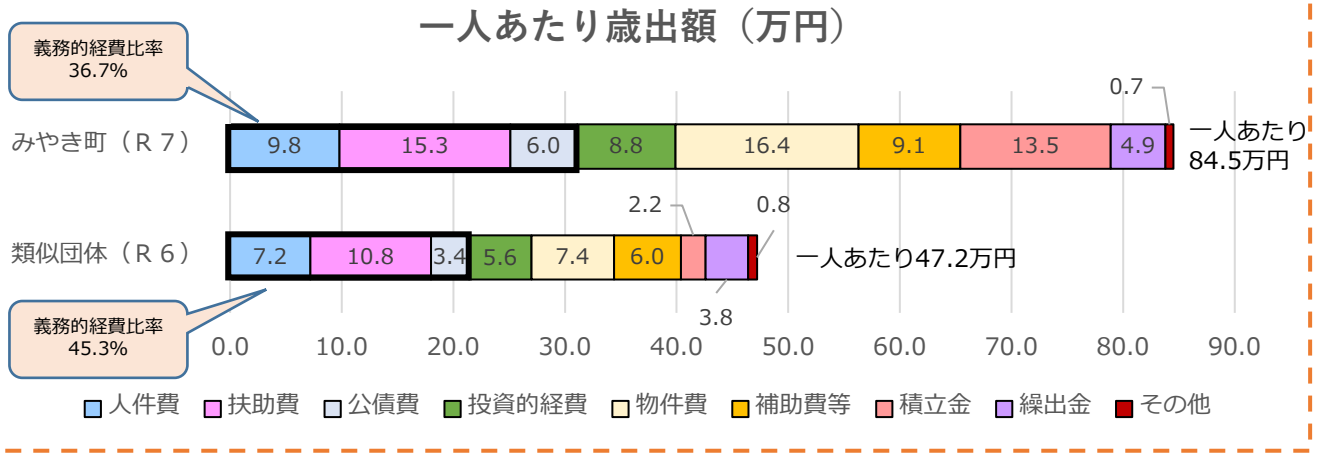
※億円単位のため、端数調整を行っています。

○歳出額の推移

義務的経費では、人件費及び扶助費が増加傾向で推移しており、特に扶助費については今後も増加傾向が継続するものと推察しています。それ以外の経費では、投資的経費が令和３年度に大きく増加していますが、これはメディカルコミュニティセンター建設事業によるものです。また、物件費や積立金が多くなっているのは、ふるさと寄附金事業推進に伴うものです。

一人あたりの歳入・歳出を他のまちと比べてみよう！





○歳入額の比較

住民一人あたりの額で見ると、みやき町の全体歳入は類似団体よりも高くなっています。

自主財源比率は、類似団体※10よりも高く、特に「繰入金」と「その他」の比率が高くなっています。

みやき町では、「繰入金」や「その他（寄附金）」などに頼っている状況となっています。

将来のみやき町を考えていく上では、歳出の削減を行い、「繰入金」に頼ることのない財政運営を行っていくことが必要です。

○歳出額の推移

住民一人あたりの額で見ると、みやき町の全体歳出は類似団体よりも高くなっています。

義務的経費比率は、類似団体よりも低くなっており、「物件費」や「積立金」などが、歳出の大きな割合を占めている状況となっています。

将来のみやき町を考えていく上では、現在実施しているさまざまな事業について、効果を見定めたうえで、縮小や終了といった見直しを行うことで、歳出の削減を行っていくことが必要です。



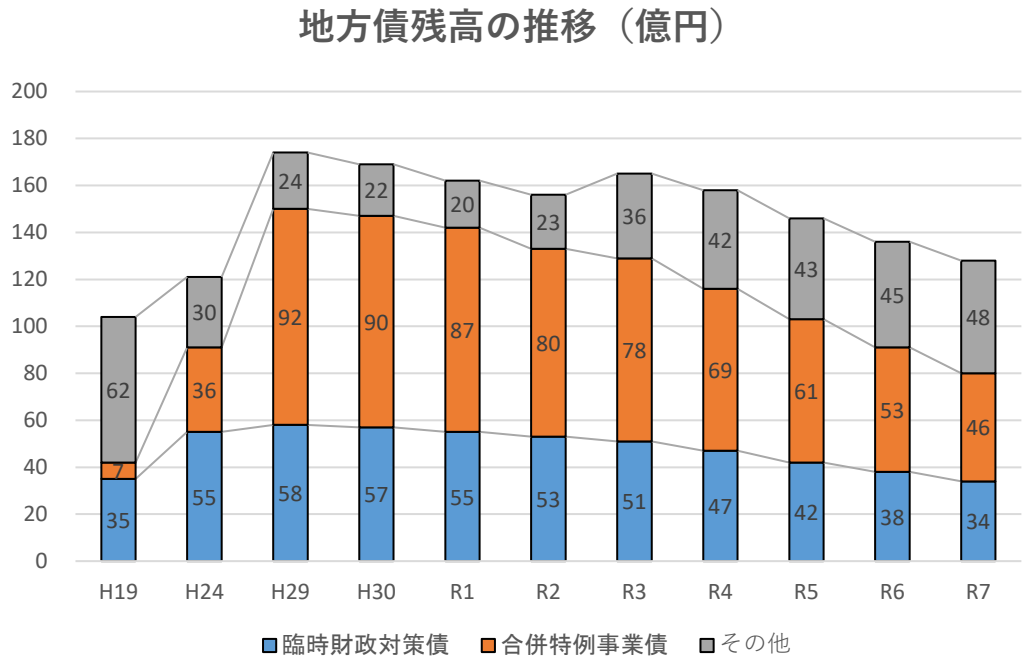
他の団体と比較するとわかりやすいね。

【用語説明】

※10　類似団体

全国の市町村を「人口」と「産業構造」の２要素の繰り合わせにより分類し、同じ累計に属する団体の総称。グラフ内の「類似団体」についての表現は、原則「類似団体平均」を表している。

借金はどのくらいあるんだろう？



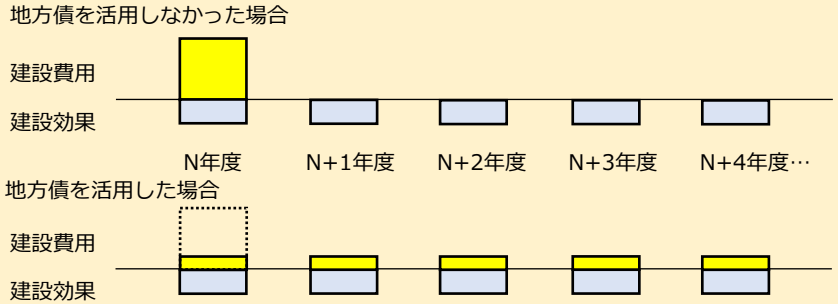
普通会計におけるみやき町の地方債（＝借金）残高は、令和7年度末時点で**約128億円**あります。

「臨時財政対策債※11」は、年々減少傾向にあります。近年は借入額も減少し、今後も減少していくと予測されます。
「合併特例事業債※12」は、平成28年度まで増加傾向にありましたが、以降は減少傾向にあります。令和３年度に借入限度額に達したことにより、今後も減少していくと予測されます。
その他は、令和３年度のメディカルコミュニティセンター建設や令和４、５年度の公営住宅建替・解体、令和6、7年度の中央公園整備事業等により増加しています。

Q．どうして借金をするの？
A．主に住民負担の世代間公平のために借金をします。

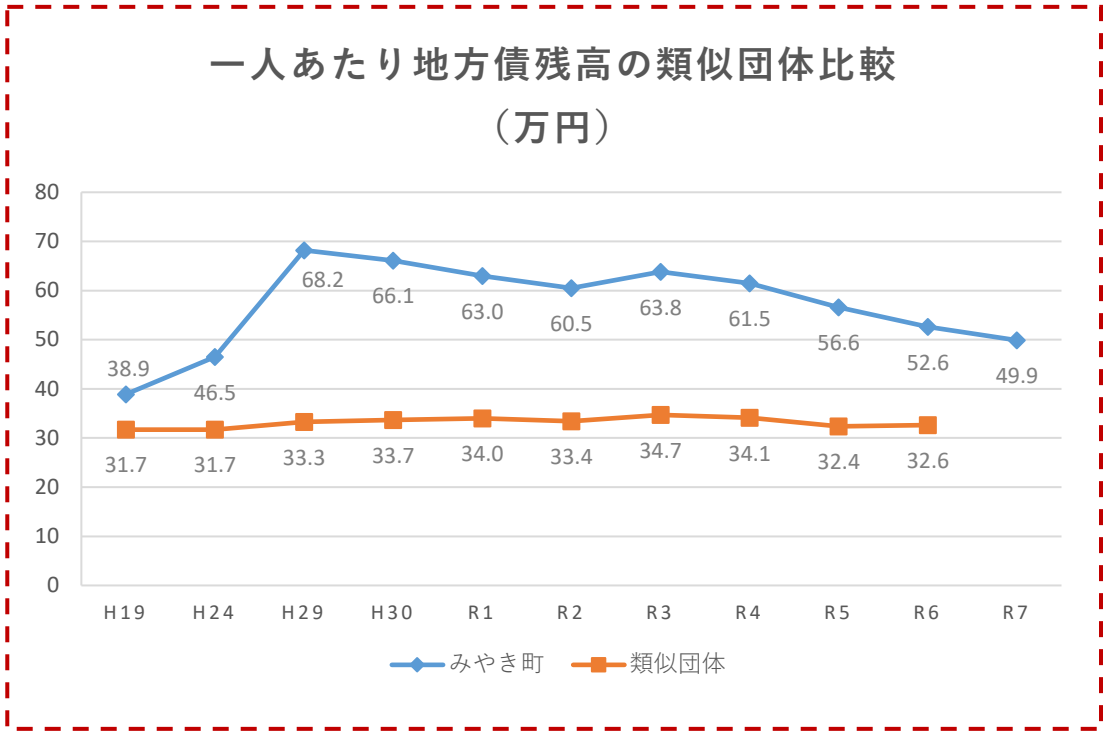
施設を建設する時は一度に多額のお金が必要となります。もちろん、お金を用意するためというのも理由の一つですが、公共施設（図書館や道路）のように将来にわたって活用する施設を建設する場合、建設時の住民だけが費用を負担すると不公平になります。そのため、これから施設を利用する将来世代の住民にも費用を負担してもらい、世代間の公平性を調整するために借金（地方債の発行）をしています。

<イメージ図>



【用語説明】
※11　臨時財政対策債
国が地方交付税（国から交付されるお金）を交付するにあたり、財源が不足した場合にその穴埋めとして、地方自治体に地方債を発行（借入）させる制度。翌年度以降の地方交付税の算定に反映される。
※12　合併特例事業債
合併した市町村が新しいまちづくりのために「新町（市・村）建設計画」に基づき実施する事業の財源として借入できる地方債のこと。

借金を他のまちと比べてみよう！



普通会計におけるみやき町の住民一人あたりの地方債（＝借金）残高は、令和７年度末時点で前年度末から27,294円減少の**498,811円**になりました。

令和６年度の類似団体と比較すると、一人当たりの地方債残高は1.53倍という結果になっています。
これは、「合併特例事業債」を積極的に活用することにより、計画を前倒しして道路や各小中学校の改修工事等を行ったことなどにより、地方債残高が大きくなっているものです。

「合併特例事業債」については、借入限度額に達し、新たな借入を行わないことに加え、順調に償還（＝返済）が進んでいるため、地方債残高は減っていく傾向になると予測されます。
しかしながら、今後は老朽化した施設の改修等が控えており、地方債残高の推計を考慮ながら、将来の財政負担が大きくなりすぎないように注意する必要があります。

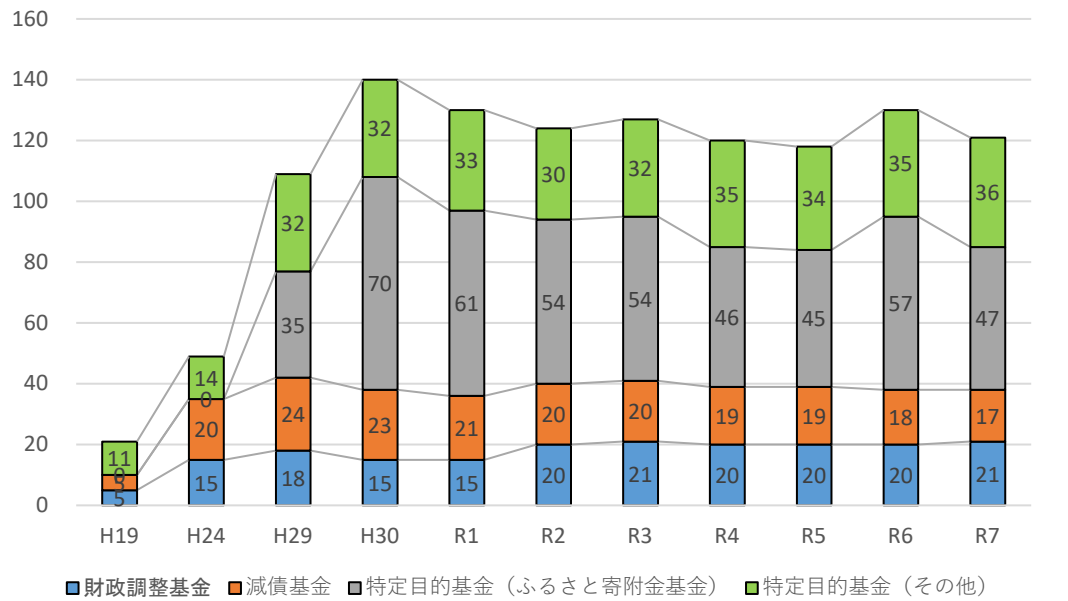
みやっきーに聞こう！

地方債にはどんな種類があるんですか？



公営住宅建設の時は「公営住宅建設事業債」、災害復旧事業の時は「災害復旧事業債」、避難所整備など防災・減災事業の時は「緊急防災・減災事業債」といった様々な目的に沿った地方債があるよ。
令和６年度からは、自治体が「こども未来戦略」に基づく取組に合わせて、こども・子育て支援機能強化に係る施設整備や子育て関連施設の環境改善を速やかに実施できるよう「こども・子育て支援事業債」を活用できることになったよ。

貯金はどのくらいあるんだろう？



普通会計におけるみやき町の基金（＝貯金）残高は、令和７年度末時点で**約121億円**あります。

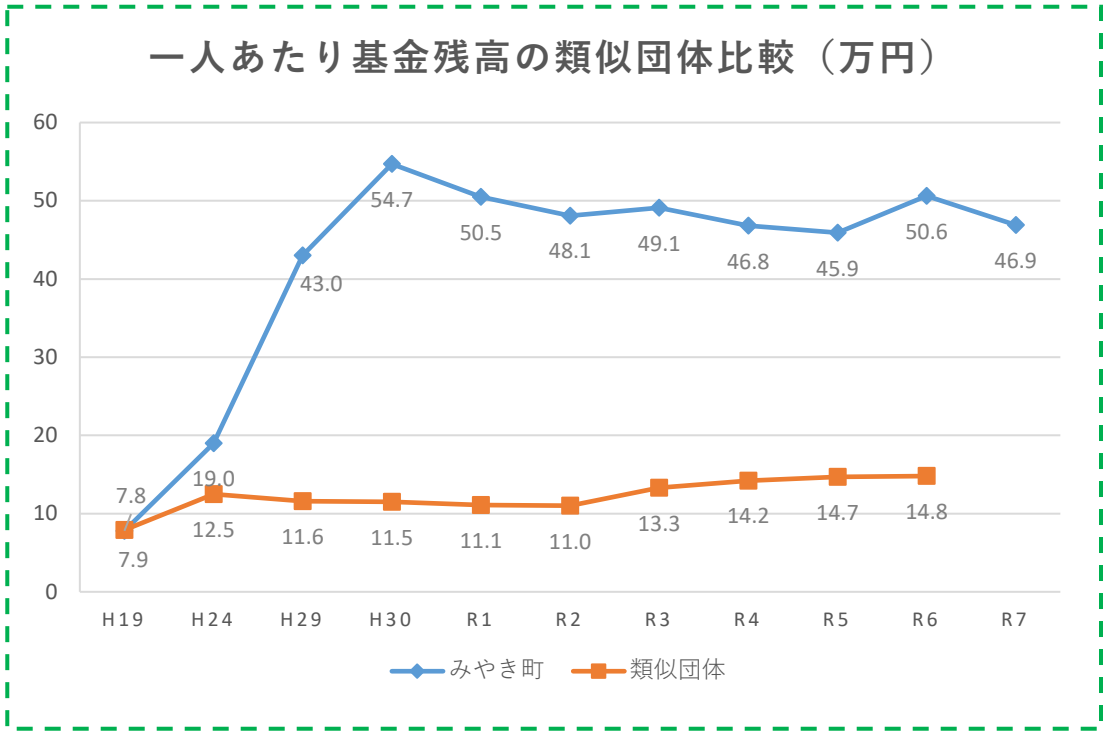
「財政調整基金※13」は、平成30年度に減少しましたが、令和２年度に20億円まで積み増しを行い、以降は横ばいで推移しています。
「減債基金※14」は、合併特例事業債の償還財源として、毎年財政計画に基づく積立てを行うとともに、毎年の償還に係る財源としての取崩しを行っています。
「特定目的基金※15」は、そのうち「ふるさと寄附金基金」が平成29年度から大幅に増額し、令和7年度末時点での残高は約47億円となっており、全国の皆様からの寄附により、18歳以下の医療費助成、学校給食の無料化などさまざまな事業を行うことができています。
その他の特定目的基金では、今後の各小中学校の施設整備等に備え、「教育施設整備基金」への積立を予定しています。

Q．基金（＝貯金）は多ければ多いほどいいの？
A．基金の持ちすぎは好ましくありません。

町は、町民の皆様から預かった税金で様々な行政サービスを行うことで還元しています。基金、つまり余剰金が多いことは皆様から預かった税金が還元しきれていないとも考えられるのです。しかし、将来の事業や不測の事態（災害等）に備えることも行財政運営では必要なことです。そのために、適正な基金を確保していき、持続可能な財政運営を行っていきます。

【用語説明】
※13　財政調整基金
　年度間の財源の不均衡を調整したり、災害が発生した際の財源として活用するお金のこと。
※14　減債基金
　地方債を返済するためのお金のこと。
※15　特定目的基金
　特定の使い道に限って使えるお金のこと。

貯金を他のまちと比べてみよう！



普通会計におけるみやき町の住民一人あたりの基金（＝貯金）残高は、令和７年度末時点で前年度末から36,564円減少の**469,423円**になりました。

令和６年度の類似団体と比較すると、一人当たりの基金残高は約3.２倍という結果になっています。これは、類似団体と比べ、ふるさと寄附金事業の推進により多額の寄附金をいただいており、その寄附金を基金へ積立しているため基金残高が大きくなっていることが要因です。

しかしながら、現在のみやき町の財政は基金の取崩しに頼っているのが現状です。今後は取崩し額を減少させ、基金残高の現状維持を基本とし、全国の皆様から寄附いただいたふるさと寄附金を活用して実施している子どもの医療費助成や学校給食の無償化などの事業を、可能な限り継続できるような持続可能な財政運営を行っていく必要があります。

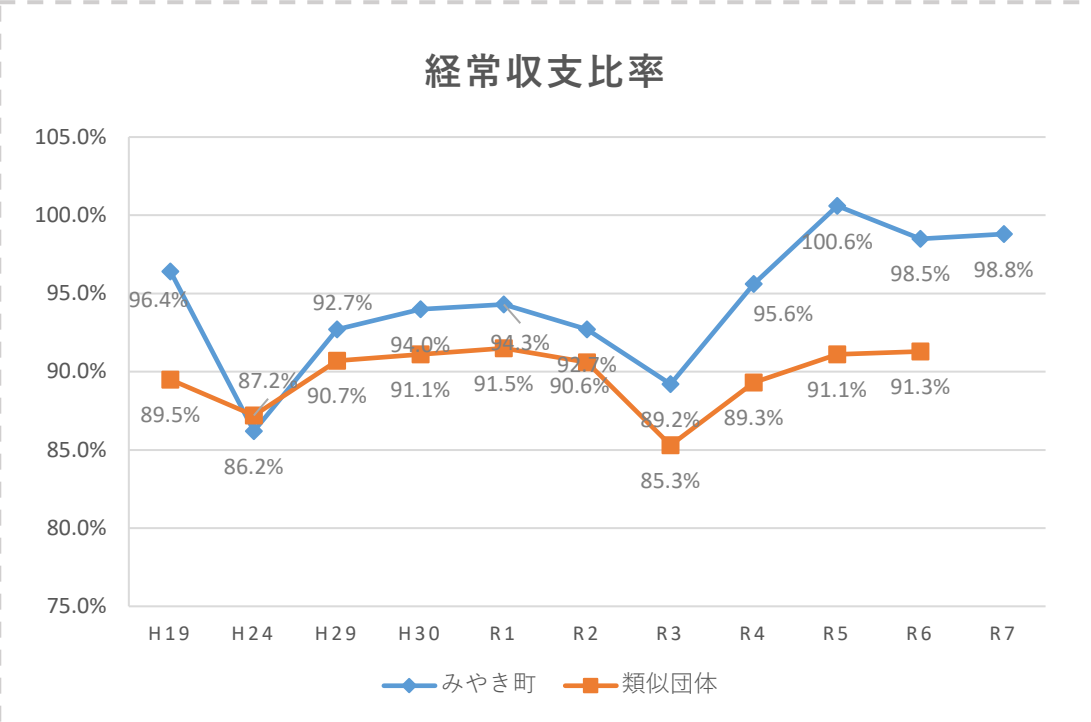
みやっきーに聞こう！

特定目的基金にはどんなものがあるんですか？



特定目的基金には、教育施設整備のための「教育施設整備基金」や子育て支援事業のための「こども未来基金」といった様々な目的のための基金が全部で19種類あるよ。
その中で一番大きいのが、全国の皆様からいただいたふるさと寄附金を積み立てている「ふるさと寄附金基金」で、18歳以下の医療費助成や学校給食費の無償化などの事業の財源として活用しているんだよ。

経常収支比率※16ってなに？



みやき町の令和7年度決算における経常収支比率は98.8%となり、前年度比率98.5%から0.3%の増となりました。

これは、人件費、扶助費、公債費等の経常的な支出の増加が町税や地方交付税などの経常的な収入の増加を上回ったことが主な要因です。

経常収支比率は100%に近づくほど、新しい事業や投資的な事業を実施する余力がなくなってしまうと言われています。

本町では、合併特例事業債を積極的に活用し、公共施設の整備などを前倒しで実施してきた結果、公債費が類似団体よりも高く、また全国平均に比べて高齢化率が高いため、社会保障関連経費などの経常的な経費が多くなっているのも比率が高い要因となっています。

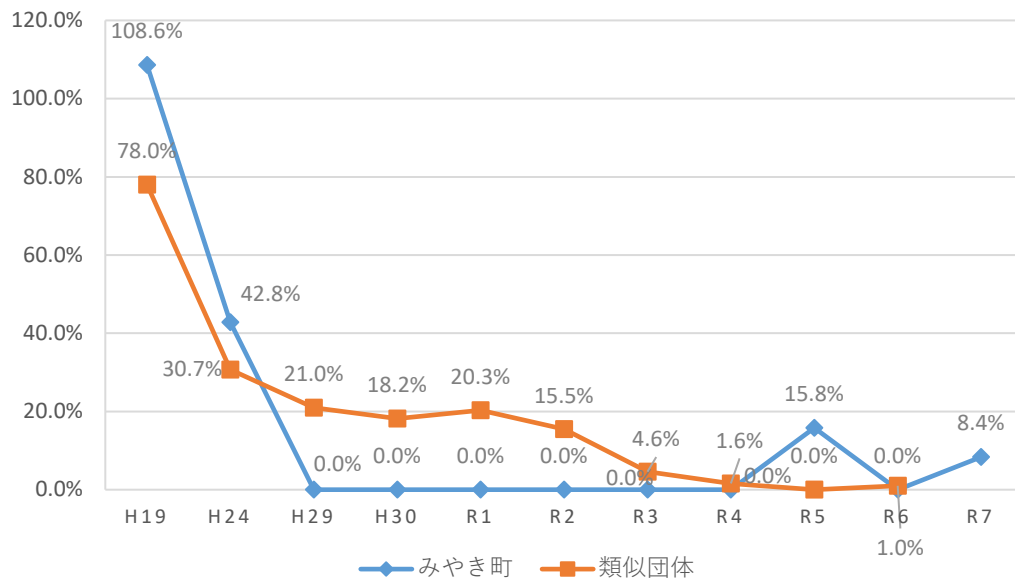
今後も社会保障関連経費の増加が見込まれますので、より一層の経費の削減に取り組む必要があります。

経常収支比率の算出方法

$$\text{経常収支比率（\%）} = \frac{\text{経常経費に充当される経常一般財源（人件費、扶助費、公債費、その他固定費など）}}{\text{経常一般財源の額（町税、各種交付金、地方交付税、臨時財政対策債など）}}$$

【用語説明】
※16　経常収支比率
自由に使えるお金の割合がどれくらいか示す指標のこと。町税などの使途に制限のない収入が義務的経費（人件費・扶助費・公債費）や、施設の管理などの毎年の固定費に充てられる割合を表す。100%を超えると、毎年決まって支出する経費に対する財源が不足していることになる。

将来負担比率※17ってなに？



令和7年度のみやき町の健全化判断比率※18のうち将来負担比率は8.4%となりました。

令和６年度は基金など将来の借金返済等に充てることができる財源が、将来負担する額を上回っていたため、数値なしとなっていましたが、令和7年度は、これらの財源が減少し、将来負担する額を下回ったため、新たに比率が生じたものです。

今後は、一部事務組合への負担金の増などによる将来負担額の増が見込まれるため、将来負担比率に留意しながら事業を実施していく必要があります。

将来負担比率の算出方法

$$将来負担比率（\%）= \frac{（将来負担額（地方債など）- 充当可能財源等（基金など））}{（標準財政規模 - 交付税算入公債費）}$$

【用語説明】

※17　将来負担比率
　市町村の将来の負担が大きすぎないかを判断するための指標。地方債などの、その市町村が抱える負債の大きさ（将来にわたって支払うことが見込まれる費用）が財政規模に対し、どれくらいの割合になるかを表す。

※18　健全化判断比率
　市町村の財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するための「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「実質公債費比率」、「将来負担比率」の４つの指標の総評のこと。

行政改革は必要？

【現状】
・合併自治体として取り組むべき施設の統廃合が進んでいない

・「定住対策」等の先進的施策により、人口が増加傾向になったが、事務事業が増大し職員数、予算規模が増大した

・歳出が歳入を上回るため、基金を取崩して予算編成している

・小中学校の更新・整備事業などが控えている

・ふるさと寄附金以外の自主財源比率が低く、国の方針に大きな影響を受ける

「将来にわたり持続可能なまちづくり」の実現

令和6年1月　第二次みやき町行政改革大綱を策定

主要財政指標の推移

項目＼年度	H１９（2007年）	H２４（2012年）	H２９（2017年）	R６（2024年）	R7（2025年）
財政力指数	0.544	0.473	0.445	0.417	0.415
経常収支比率	96.4%	86.2%	92.7%	98.5%	98.8%
公債費負担比率	15.3%	13.8%	15.4%	13.2%	13.3%
実質公債費比率（3ヵ年平均）	16.7%	13.0%	11.6%	9.8%	9.7%
基金現在高（千円）	2,096,333	4,937,314	10,948,883	13,040,802	12,089,994
財政調整基金	516,663	1,472,862	1,765,703	2,017,659	2,083,174
減債基金	475,382	1,984,549	2,370,304	1,757,332	1,650,552
その他特定目的基金	1,104,288	1,479,903	6,812,876	9,265,811	8,356,268
地方債現在高（千円）	10,432,402	12,051,887	17,381,972	13,559,317	12,846,885
債務負担行為（未済）（千円）	3,411,665	2,744,736	2,881,184	5,924,045	7,492,474
標準財政規模（臨財債含）（千円）	6,397,604	6,941,107	7,179,194	8,172,292	8,456,115
市町村税徴収率（現年課税分）	97.6%	98.0%	99.0%	99.3%	99.2%

行政改革大綱の内容は？

【基本方針】
- ◆「住民の生活を守り、安全で住みやすい町にしていき、 将来にわたり持続可能なまちにしていく 」
- ◆「最小の経費で最大の効果を挙げる」ため、限られた財源の中で、効果的かつ効率的な行政運営を実現
- ◆「いい町になった。この町に住んでよかった。」と町民の皆さんに実感していただく

【方向性】　～「将来にわたり持続可能なまちづくり」を実現するために～

◆行政サービスの改善と向上
①協働の取組　②事務事業の改善　③自治体ＤＸの推進

◆公共施設の適正管理
①公共施設の効率的な管理運営　②財産の適正管理・有効活用

◆行政組織の効率的な運営
①効率的な行政組織　②職員の能力と意欲の向上　③業務の効率化

◆健全な財政運営の推進
①自主財源の確保　②歳出削減　③中長期的な財政計画による運営

【改善プロセス】
①分析　②共有　③立案　④実行